

# 第三學期に於ける觀察

東京女子高等師範學校附屬幼稚園

## 一

第三學期には正月の行事があり紀元節節分がありお節句がある。是等の行事に關聯して第三學期の觀察が行はねばならぬ。勿論幼兒の生活内容として取入れられるお正月であり、お節句であるから幼兒の生活内容の充實をはかるために觀察が行はるべきもので、切離した觀察事項とか觀察材料として是等の行事を取扱ふべきものではない。従つて幼兒が生活内容として當然觀察し得るものだけが觀察事項となるべきものである。幼兒の觀察出來ぬものを強ひて觀察事項としてあみ込まねばならぬものではない。

第三學期は冬の生活を觀察させることが適當である。適當といふよりも寧ろ當然である。冬の生活を如實にしてゐる幼兒にはその生活内容を構成してゐる事物を経験してゐるから注意させるまでもなく觀察事項となつてゐる。しかし特に注意して觀察させることは必ずしも無意義ではない。

## 二

お正月は所謂お正月の生活を家庭で行つてゐるのであるから、それ等の材料を観察事項にせねばならぬ。お雑煮はどんなものか、お正月の御馳走はどんなものかを幼稚園で問答したり、説明したりする必要は無論ない。幼児が家庭で経験してゐるだけで澤山である。しかし御餅はどんなにしてこしらへるか、お雑煮や御馳走の材料がどんなものであるか。それ等の觀念を明白にして、その名稱を授けることは決して無意義ではない。殊にお正月の飾り物、門松の竹や松、また七五三繩、うらじろ、橙、昆布、ほんだはら、えび、ゆづり葉等を觀察させて、その觀念を明白にし名稱を授けることは必要である。しかし幼児に理解困難な植物學上の知識を授けたり、動物學上の説明をなすのではない。幼児の觀念を出來るだけ明白にすること、幼児の觀察によつてその觀念の明白を期することが肝要である。また地方によつては南天、七草、福壽草、梅、水仙等を觀察の材料となすもよいが、是等とても個々のものを特に教授するのではない。お正月の生活内容として取入れるだけの話である。それで南天の實が雪兎の目玉となり葉が雪兎の耳となると、たどんが雪だるまの目玉となる場合にそれ等を觀察させるのである。またお正月の遊びとして行はれるカルタ、すご六、羽子つき、凧あげ等その地方／＼でお正月に多い幼児の遊を観察材料に選擇せねばならぬ。尤も羽子と羽子板とで遊ぶことが主要な材料で、凧を上げることが幼児の生活である。觀察であるからといつて羽子は何でつくるとか、羽子板の種類や、凧の上がる原理を説明するのではない。羽子つき遊や凧上げの間に羽子板が何で出來てゐるか、どんなになつて

ゐるか、どんな形か、羽子はどんなになつてゐるか、羽子はどんなになつて落ちて來るか、凧はどんなになつてゐて、どんな種類があるか、どんなときに凧が上がるか等、いろ／＼の事項を幼児が経験するので澤山である。

### 三

一月から二月にかけて冬の氣候と動植物の生活する有様、それから冬の服装や冬の住居等について幼児に觀察させ、生活させ經驗させねばならぬ。雪が降ればどんなになるか、雪はどんなものかを觀察させる。只室内から雪の降る有様を眺めるとか、雪を室内でさはつて見るとか、とかして見るだけでなく、雪を以て遊ばせることが必要である。雪の降る中に幼児を外遊びさせることも面白いことであり、雪遊びをさせるもよい。雪投げ結構、雪だるまをこしらへさせることもよい、雪兎をつくらせるも面白い雪を中心としたいろ／＼の遊をさせるがよい。また霰が降れば霰、つららが出來ればそれを觀察させるがよい。氷が張れば氷、霜が降り霜柱が出來れば矢張それ等を觀察させるがよい。氷滑りやスキューは幼児に出來なくとも、雪國では雪の中で遊ぶ方法がいろ／＼あるからそれを經驗させるがよい。幼児だからとて室内にだけ閉ぢ込めて置かねばならぬことはない。只あまり無理を強ひて幼児が病氣になつたり危険な動作をするやうなことがないやうに注意が肝要である。

また冬の鳥や雀などがどんなにしてゐるか、兎やたぬきなどがどんなに冬を越すか、金魚、鯉、鮎などがどんなにしてゐるか等、冬の動物が越冬する有様を觀察させることが出來れば至極結構である。是等は只説明するならば全く必要がないことであるから、觀察材料がないのに強いて觀察事項として選擇

することは勿論必要ではない。只觀察せしめ得る場合だけのことである。

吾等はどんなにして冬防寒するかについても觀察材料が容易に得られる。着物にどんなものがあるか、どんな着物が暖いか、襟巻、手袋、足袋、靴下などについても注意させてもよい。しかし程度の高いことを説明することが不必要である。これは緑々も注意して置かねばならぬ。また冬、暖室のためにどんな工夫をなすか、火鉢、ストーブ、木炭や石炭、五徳鐵瓶、水盤か十能等についても觀察させ、また鐵瓶から出る湯氣、窓硝子につく水滴等も觀察させ、火に對する注意を與へて幼兒の生活に必要な訓練をなすがよい。

#### 四

二月になれば節分があり紀元節があるから、これに關する事物の觀察材料を選定せねばならぬ。紀元節には國旗を觀察させるため、幼稚園内に各國旗を裝飾するもよい。また萬國旗や我國の各種の旗の掛圖や實物寫眞などを觀察させるもよい。軍旗と軍艦旗などは幼兒が喜んで區別するものである。

また節分の頃に豆類・穀類等を觀察させ、普通の穀類・豆類等の觀念とその名稱とを得させるもよい。また是等を材料として遊びをなし、商ひ遊をなさしめたり、八百屋ごっこ、銀行ごっこなどをなさしめるもよい。或は是等の穀類・豆類を使つて數のあてつこをなさしめて數觀念の發達を促すもよい。いろ／＼の遊びの間に庶物の觀念を與へ、また名稱を知らしめ、數觀念を養成することは至極よいことである。たとへばしりとり遊びもよく、動物繪本などでその名稱のあてつこ遊びをなすもよい。そして片假名などを知らしめるも幼兒の生活の必要に應じて授けるならば一向に差支ない。幼稚園だから教へてはよくな

いといふことはない。幼児の生活する間に必要な文字を知り數觀念の自然に發達することは至極望ましいことである。また蜜柑、材檜などを觀察させ、その相異點を比較させることも面白いことであり、觀念の明白な事物についてその相異點を發表させることも面白い遊びである。林檎と柿、柿と蜜柑、自動車と人力車、電車と汽車、自動車と人力車、鋏と庖刀、火箸と箸、など何でもよい、幼児の有する觀念が明白なものについてそのちかつたところをいはせることは面白い遊びであり、觀察の一仕事である。是等は實物を觀察させないから觀察でないやうであるが、觀念と觀念とを比較する働で、重要な觀察の一作用である。

## 五

三月にはお節句がある。お雛様が飾られ、ひし餅や白酒、桃の花が供へられる。白酒をのませたりすることはよくないが、雛祭を中心にして幼児の生活が行はれいろくの觀察が行はれることは必要なことである。いろくの材料で幼児に雛をつくらせるがよい。紙雛でも豆雛でもまた銀杏雛でもよい。また桃の花、梅の花、水仙等の花類を觀察させるもよい。

三月になれば、次第に晝も長くなりそろそろ陽氣もよくなるから氣候を冬と比べて觀察させることが必要である。

大體に於て第三學期は動植物で觀察させるものが少いから室内で觀察が出來、室内遊びが出来るやうな玩具の觀察が多く配當せられるやうにせねばならぬ。